

府中宿 散歩



◆**聖光院安養寺**
嘉禎4年(1238)、聖光上人開基の浄土宗寺院です。

◆**永福寺横のえびすさん**
板石に半肉彫りで、祠に納められています。

◆**旅籠白田屋**
郵便局横に残る日田屋の建物。屋根の形に当時の面影が見られます。

◆**下町のえびすさん**
大正4年(1915)頃再建。板石に半肉彫りの珍しい形です。

◆**矢取のえびすさん**
天保7年(1836)建立。矢取公民館前に祀られています。

◆**上町の民家**
宿場の雰囲気現代に伝えています。

◆**本陣跡の井戸**(現御井小学校)
明治6年(1873)、本陣は小学校になりました。井戸は数少ない本陣の遺構です。

◆**高良山の大鳥居**(国指定重要文化財)
承応4年(1655)、2代藩主有馬忠頼が寄進した明神形式の鳥居です。

◆**大鍋屋と漆喰壁の鏝細工・鬼瓦**
下町でも最も古い300年以上の歴史を持つ青柳家の建物。漆喰の白さとなまこ壁が美しく映えます。

◆**愛宕神社の石馬**
明治9年(1876)、府中町や近駅郷の馬持らが奉納。

※薄緑色の道路は、明治以前から存在する古い道路です。

歴史散歩

れきしさんぽ No.42

坊津(薩摩)街道と府中宿

坊津街道とは
坊津街道は、薩摩坊津(南さつま市坊津町)を基点とする全長約397kmの参府往還で、肥後南関(玉名郡南関町)から柳川藩領瀬高宿(みやま市)を通り、久留米藩領を横断して筑前山家宿(筑紫野市)へ続きます。ここから先は、長崎街道に接続して豊前小倉から約1,500km離れた江戸へ向かいます。この往還は、久留米藩をはじめ、薩摩・八代・人吉・熊本・三池・柳川・島原藩が利用しました。久留米城領内は、矢部川沿いの今寺(筑後市津島西)から、羽犬塚宿、府中宿の順で、神代の渡しを経て松崎宿を通り、御原郡乙隈村(小郡市乙隈)の筑前・筑後国境に至ります。有馬氏の参府は、久留米城を出て城下の通町十丁目口を北に折れ、宮地の渡しで筑後川を越えて、古賀茶屋(市内宮ノ陣町)で坊津街道に合流し、松崎宿へ向かいました。

ただし、松崎宿が設置され、松崎街道(薩摩街道)が完成したのは、延宝6年(1678)のことです。それ以前の久留米藩や柳川藩の参勤交代は、山家宿の南側の石櫃の追分(筑前町)から、秋月街道を通って小倉に抜けていました。このルートは松崎宿の整備以降、参勤交代にはほとんど利用されなくなってしまいました。

府中宿について

古來信仰を集める高良山の門前町であり、坊津街道、日田街道、柳川往還が合流する重要な宿場町でもありました。宿場は旅行者の宿泊や休憩、人馬の継ぎ立てが主な役割で、庄屋や横目(監視役)などの村役人と、往還筋の町並みを管轄する町別当が宿場町の行政を取り仕切っていました。この支配下で実務に当たる人馬問屋場があり、問屋役がいました。さらにこの下に、馬や人足を差配する問屋場役人がいました。問屋場には、通行人を継送するための人足15人、馬10疋、駕籠10挺が常備されていました。

町は北から上・中・下町の3つに分かれています。上町には広手があり、ここから東へは高良社、西へは久留米城下につながっていました。広手には高札場があって、その東側には、大名の休息宿泊施設である本陣(御茶屋)が置かれていました。現在は、市立御井小学校の敷地となっており、「伊勢の井」と呼ばれる井戸が残っています。あるいは消防団裏手に残る石組みも、本陣の遺構である可能性があります。

他にも町筋には、脇本陣や駅屋(問屋場)、16軒の旅籠、安養寺・永福寺・源正寺の3ヶ寺と鎮守の高良下宮社(祇園社)、民家が並んでいました。町の南と北の出入り口には、構口が設けられましたが、他の宿場に見られるように道が鉤の手状に曲げられず、緩やかに蛇行する直線道でした。構口には、明治43年(1910)まで、高さ約2mの石垣の上に番所が残っていたそうです。

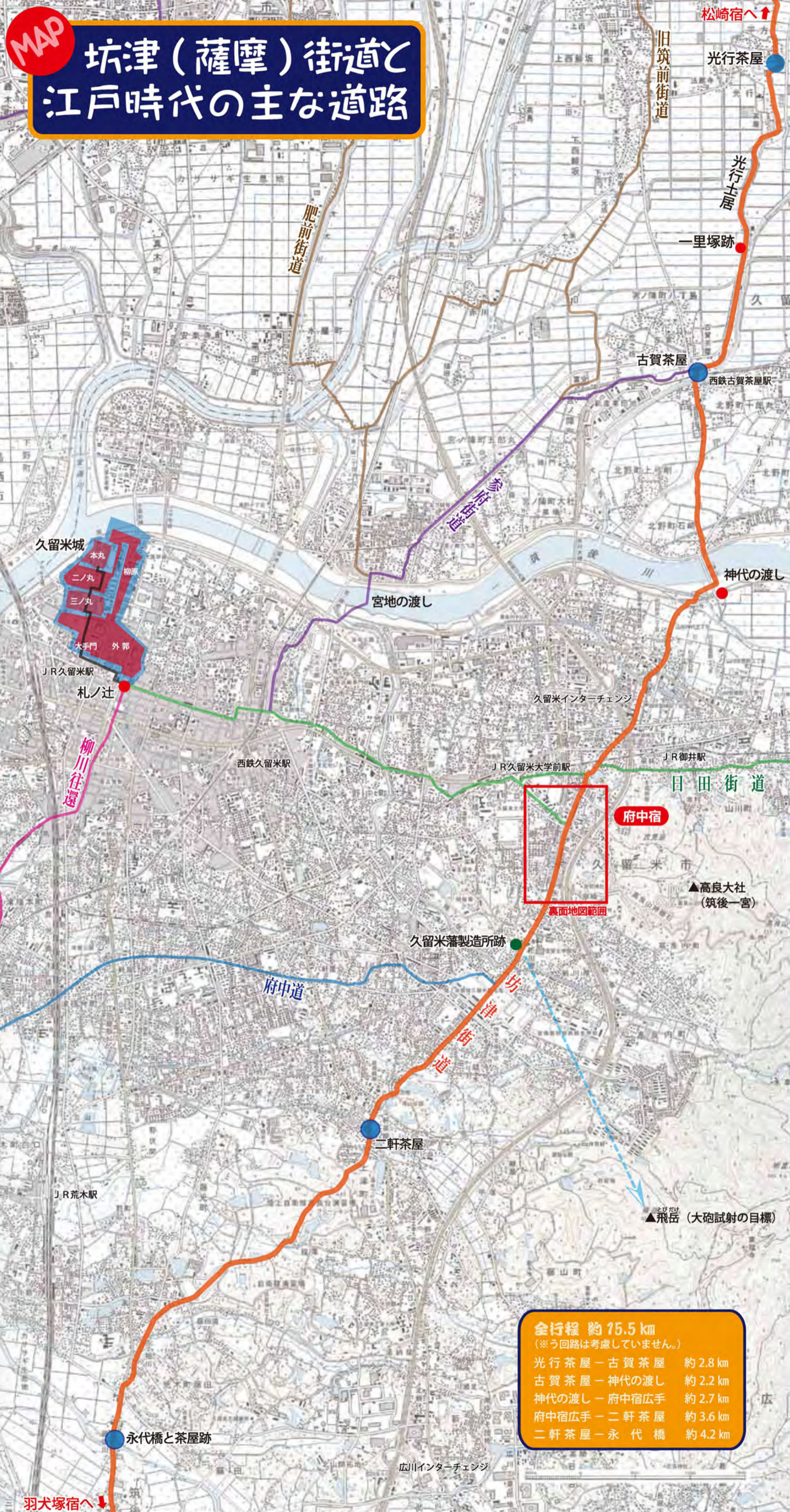
なお、府中宿には明治3年(1870)には16軒の旅籠がありましたが、幕末になると諸藩の往来は、蒸気船にとって変わられます。府中宿は同年4月に廃止され、同宿は急速に衰退していきます。

※1 参府往還(さんぷおうかん) 江戸時代に大名の参勤交代に使われた街道。
※2 広手(ひろて) 道が広がっているところ、広場を指す。

○背景写真は、府中宿最古とされる高良下宮社のえびすさん(祠に文政10年(1827)建立銘)

MAP

坊津(薩摩)街道と江戸時代の主な道路



光行土居 (写真の場所は小都市域)
河川の氾濫を防ぐ土手を街道に利用しています。



光行土居の一里塚跡
国道 322 号のたもとに記念碑があります。



神代の渡し
鎌倉時代には神代氏が管理する浮橋がありました。



府中宿の本陣跡 (現御井小学校)
参勤交代時の大名の宿泊施設。御茶屋とも言います。



久留米藩製造所跡
幕末に田中久重が洋式大砲を铸造した場所です。



二軒茶屋に残る坊津街道
屈曲しながら続く狭い道、当時から使われます。



永代橋跡
広川にかかる橋の基礎と街道の一部が残ります。

全行程 約 15.5 km
(※う回路は考慮していません。)

光行茶屋 - 古賀茶屋	約 2.8 km
古賀茶屋 - 神代の渡し	約 2.2 km
神代の渡し - 府中宿広手	約 2.7 km
府中宿広手 - 二軒茶屋	約 3.6 km
二軒茶屋 - 永代橋	約 4.2 km

羽犬塚宿へ ↓